

- ▶第65回学校代表者協議会 (2～3面)
▶公募 (2面)
▶キリスト教看護教育推進会議 (4面)
▶関東地区中高研究集会 (〃)
▶関西地区新任教師研修会 (〃)
▶キリスト教Q&A (〃)

キリスト教学校教育

1

2022・2023年度教研テーマ
希望と喜びに生きる―新たな転換期に立つキリスト教学校

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 康太
編集人 田村 浩一
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)
(毎月1回15日発行)

キリスト教学校教育懇談会 第21回講演会 災害支援とキリスト教学校 ―共に祈り、共に歩もう―

11月18日(土)にオンライン開催され、各加盟校から51名が参加しました。松村康平氏(上智大学)の司会進行で、西原康太教育同盟理事長の開会挨拶、齋藤哲郎カリタス学園理事長の開会祈禱から会は始まりました。カリトリック東京大司教/国際カリタス総裁の菊地功氏による基調講演は「なぜキリスト者は人を助けるのか」がテーマ。菊地氏は、「共に歩む」という意味のギリシャ語「シノドス」の説明に始まり、西アフリカ・ガート教学校教育懇談会を共に運営しています。この懇談会主催の第21回講演会「災害支援とキリスト教学校―共に祈り、共に歩もう―」が2023年

望は、調和・多様性・連帯の中から生まれてこないと。特に連帯が必要だということを改めて心に刻みたい」「災害の前にも後にも(人の集いと教会が常に)あるべき。支援が報告され、2011年に花の苗などを送ることも、募金活動から始まった。数年前には、生徒たちから『被災地』という言葉を『訪問・支援』という言葉や『訪問・支援』というのとは、一方的な見方ではないか、『共に生きる』視点が欠けていないか」という疑問の声が上り、現在のプロジェクトには「応援」という言葉を用いていること、さらに、今も現地に通ったり、移住した卒業生たちも出ているという報告がありました。

「東京祈りの輪」については、「キリスト教学校」に「共に歩む」。有志



菊地功氏



松井信行氏



森匡史氏



魚港での「めかぶ」そぎ作業(報告I)



福島のリンゴを使ったパン作り(報告II)

校だからこそ「共に祈る」ことができる」ということ。被災地、東京地区の同盟加盟校有志による集いであり、現地報告等の後に必ず「祈り」の時間があること、祈りの輪のために作られた式文を用いて、学校の教派を問わず生徒たち自身が会葉を用いて、果たしては、共に祈るようになったこと、また、同校の高校生ボランティア派遣では、漁業や観光資源に関わる手伝い・コミュニティ作り・お祭りの手伝いなどを重ね、学校も「被災地ボランティア支援」の制度を作り、バザー収益や保護者・教職員員の募金でボランティア活動をする生徒を金銭的にも支えていることが報告されました。

事例報告IIはカリタス女子中学高等学校(森匡史教諭)の「出会い、交わり、共に歩む」。有志

2024年、新たな一年が始まりました。キリスト教学校教育同盟につらなる、すべての学校法人、それぞれの児童・生徒・学生、また教職員の上に、主の豊かな祝福とお恵みがありますように、お祈り申し上げます。

かに上手く活用できるか、それに対するリテラシーについてもしっかりと教えていくことが求められているのだと考えます。

一方で、デジタルネイティブと言われる今時の子どもたち、彼女らにとってもはや「情報」でさえもありません。受信する情報量も140字以内のものしか読まない(読めない)と公言する学生も、冗談ではなく存在します。

〈真理を味わう場〉としてのキリスト教学校



西原 康太

昨年話題の一つは、ChatGPTに代表される生成系人工知能の浸透でした。生成系人工知能の利用をめぐっては、技術的な側面だけでなく、倫理的な観点や著作権の尊重、プライバシー保護など、多岐にわたる問題が指摘されています。しかし、こうしたAI技術は今後ますます社会的影響を強めていきますので、使用をただ単に制限するということではなく、い

もたが、ますます安直なネットサーフィンをするが、真偽不明な情報をあたかも真実として認識してしまうことに懸念を覚えます。逆に言えば、ネットで瞬間的に得られないものは、彼

歌人の俵万智さんは「体験的読書論」の中で、子どもは、言葉を感じるのではなく「食べる」のだ、と論じています。自分に喜びをもたらしてくれる「おいしい言葉」を、子どもたちは

「聖書に生きる人はみな、聖書を読み捨てたのではない、食べ噛み砕いて生きている。聖書は読むものではない。食べるものである。」

2009年に、立教大学を訪問してくださったロー

ワン・ウィリアムズ・カンタベリー大主教は、このように語られました。「大学とは真理をじっくりと「味わう場」です。預言者エゼキエルが「この巻物を食べよ」と告げたように、学生たちに言葉を食べさせなければなりません。言葉が意味を受肉する瞬間の知的興奮に学生を引きずりこむことができた時に、それは見事なキリスト教教育であると断言できるのです。」

人々の尊厳と命が奪われ、あらゆる権威が揺らぐこの時代にあって、あらためて、このキリスト教教育の原点に立ち戻りたいと願います。

〈キリスト教学校教育同盟理事長〉

加盟校動静

長崎学院
栗屋廣氏が12月3日付で理事長を退任、12月4日付で石川昭仁氏が後任に就任。

2024年度派遣申請受付

- 研修会の講師費・講師交通費等を同盟が負担。
- 派遣講師の指名や希望は受け付けていません。
- 教育同盟HPお知らせ欄より入り、要項と申込書をダウンロードしてご利用ください。
- 申込み締切・1月31日(水)
- 選考・講師派遣委員会が2月中旬に決定

締切間近です

<行事予定>

- 1/12~13 第66回小学校代表者研修会(青山学院横浜英和小学校)
- 6/7~8 第112回定時総会(関東学院大学関内キャンパス)
- 11/1~2 第66回学校代表者協議会(啓明学院)

「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書28章20節)

弟子たちはガリラヤの山に登り、復活の主イエスを礼拝しました。その後には「しかし、疑う者もいた。」とありますが、原文の聖書では「みんな疑っていた。」という言葉が使われています。弟子たちは目で見て、実際に声を聞いて、手を伸ばせば触れられる所に主イエスがいるにも関わらず疑っていたのです。

マタイ福音書のもう一つのポイントが、「復活の主イエスに会える場所はいつものガリラヤである」ということです。ガリラヤには貧しい人たちが大勢住んでいました。ガリラヤは人間の悲しみの象徴です。「弱さ」の象徴でもあり、自分の力ではどうすることも出来ない悲しみを抱えた人々が住んでいた土地です。そ

聖書のことば



破れからの出発



高濱 梨紗

して私たちの心に、私たち自身の心のなかにも、悲しみや弱さの象徴である「ガリラヤ」は存在しているのです。

私たちが一番神様の救いから遠いと感じる時にこそ、主は共におられるのです。痛むものと共に生き、悲しむものと共にあった主イエスが、私たちに先立ってガリラヤにおられます。そして弱さの象徴であるガリラヤから弟子たちを派遣されます。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」という約束の宣言によって押し出してくださるのです。主イエスが共にいてくださいます。私たちがどんなに小さくても、力なく途方に暮れてしまいそうになる時も、主イエスが導き、知恵を与え、道を備えてくださるのです。ここに集う私たちも、主の十字架と復活の出来事から、私と主イエスの物語をまた一步はじめていきましょう。

〈北星学園余市高等学校 宗教主任〉

1学期のみ）各1名
 応募締切①1月19日②
 1月31日
 問合せ＝htakeda@
 aoyamagakun.jp
 △明治学院中学校・東村
 山高等学校
 職種＝英語科、保健体育
 科 非常勤講師各1名
 応募締切②2月15日（1
 月22日受付開始）
 問合せ＝2042-391-2144
 △山梨英和中学校・高等
 学校
 職種＝英語科、理科 専
 任教諭又は期間採用教
 諭各1名
 応募締切①1月16日
 問合せ＝2055-252-6188
 △北陸学院中学校・高等
 学校
 職種＝情報科 専任教諭
 1名
 応募締切①1月31日
 問合せ＝2076-280-3855
 △同志社国際中学校・高
 等学校
 職種＝国語科 非常勤講
 師2名
 応募締切①1月31日
 問合せ＝20774-65-8911

学校代表者
協議会
発題Ⅱ要旨
(発題Ⅰ要旨(西南学院・伊藤彰浩氏)は
本紙2023年12月号をご覧ください)

強まる制度化に抵抗する 「建学のこころ」

活水学院 理事長・院長 湯口隆司

評価手法」として導入され、2008年に大学にも採用された。これにより各学部、学科、学内の委員会など大学は各所で不断にサイクルを回すことになる。

今期の大学認証評価は「内部質保証」が重点項目である。全評価項目の「基準」には合計で数百以上の根拠資料の紐づけが要求される。教学IRやエビデンス重視を背景に、調査結果によると評

強まる私学教育の制度化は、曖昧なままの「建学の精神」の定義、「精神」と「理念(理性概念)」の背景と二者を区別しない議論により「こころ」の役割をむしろ露内部質保証であるはずが呈された。現在の大学教育の制度的枠組みのひとつ認証評価制度(例えば大学基準協会)は、評価項目(10項目)のすべてに「大学が自ら掲げる理念・目的」を土台とする「基準」を設けている。

経営面の教学ガバナンスでも合理的客観的「理正な」基準体制のなかでキリスト教学校は人格教育、人間教育、礼拝や宗教活動などの独自の教育を行いつつその本質である神、愛、存在、隣人、共同体、人格、自律など持つ「意味」、つまり心意味を探る教育を堅持してきた。制度化は「理正な」から「基準」に教育内容を落とし込む。その作業過程で何が入り、何が落とされたのか。その手段と理由への真剣な検討がなければ「精神」はスラスカの科学的客観性だけの教育になりかねない。一番の懸念は「建学の精神」の曖昧な把握の

ここでの評価(技術)とはPDCAサイクルである。モノの品質管理過程で有効性が認められた技術的手法だ。1990年代に行政改革のために「評価の客観化」、「数値化・計量化など合理的な

まま議論をすすめ、心の項目が軽視され切り捨てられることである。

知識偏重の教育環境のなかで愛、平和、希望、そして信仰はキリスト教教育が持ちこたえてきた人である。現代の大学教育に育てる「こころ」のテーマであつた。エンデの童話『モモ』は示唆に富む。素朴な日常生活から人間性を奪う「時間どろぼう」が密かに支配したのがクロノスの時間の世界である。逆に「人のこころ」が生きる生活こそがカイトスの時間とな



神の核となる心の場所がある。現代の大学教育に育てる「こころ」のテーマはより高度で知的に広範囲な領域へと比重を移す。認知科学と生成AIの研究は脳から心のはたらきへと領域を広げている。心ある「建学の精神」を守りリベラルアーツ教育の意義を教職書と礼拝」である。そこ員が自覚し深化させねばにカイトスの時間と精

卒業生の心で愛を残せるか
関東学院中学校高等学校 校長 森田祐二

卒業生の心で愛を残せるか

関東学院中学校高等学校 校長 森田祐二

学校説明会で各校がプレゼンするトピックは、おそらく現在の教育トレンドからすると、ICT



学校説明会で各校がプレゼンするトピックは、おそらく現在の教育トレンドからすると、ICT

があるかということですが。私たちはキリスト教学校として、学校の学びの先にあることを、他校とは異なる特色あるカリキュラムにおいて、あるいは匂いとか香りというヒドゥンカリキュラムにおいて実現しなければならぬと感じています。コリントの信徒への手紙にこうあります。「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

各校にはスクールモットー、建学の精神というものがあります。どのようにな人材を育て、どのように社会に貢献していくかと言った学びの目的が独自の特色あるモットーを、学生・教職員が共有することは、その学校で学ぶ目的、意義を確かめることに繋がりますし、その学校への帰属意識を高め、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

私たちは、卒業生の心に「愛」を残せているでしょうか。愛ある卒業生を輩出できているでしょうか。卒業生は自分を愛し、また他者を愛し、利他の精神を身につけているでしょうか。受験に傾倒していませんか。部活で何を学べたのか、と

協会の取り組み



初等部食堂での昼食



キャンパス見学



教育同盟古川理事より御礼

公立から見たキリスト教学校 —その驚きと喜び—

北陸学院小学校 校長 茶谷信一



公立の小学校に長年勤務していた私は、ミッションスクールに足を踏み入れて、実はたくさんのことに驚き、喜びました。北陸の山あいにある小さな学校ですが、そこでは毎日、当たり前のように「キリスト」が語られているのです。

(1) 毎日、全校で一緒に礼拝が行われているということ
(2) 全学年、週一で「聖書科」の授業があるということ
(3) 教会学校の分級のように、「聖書科」では礼拝での説教が具体化されます。児童アンケートには、「この世界は神さまによって造られた」と回答する児童が、低学年・高学年を問わず7〜8割に上りました。しかもその大半の子どもたちが、未信者家庭から来ています。

入学式や卒業式、クリスマスやイースターはほろろん、驚くべきは運動会や学習発表会までが「まずは礼拝から」となっていることです。公立では考えられないことではあるけれど、

(5) 校舎全体に流れる柔らかな雰囲気と安心感
泣いている子やケンカをしている子どもたちももちろん時々はいますが、校舎全体を流れる柔らかな安心感は、明らかにキリスト教学校のそれなのだと思います。

公立学校でも自然と触れ合ったり探求したりする時間はありましたが、ここではその美しさや構造の精緻なしくみが、神さまによって造られたことにまで言及できます。問題は、児童数の確保とそれに伴う財政面の厳しさです。

北陸唯一のキリスト教学校でありその存在意義は大きいと考えますが、地方はまだ「私学志向」が都会ほど強くなく、児童募集には様々な手段を用いながらも苦しんでいるところだからです。

北陸唯一のキリスト教学校でありその存在意義は大きいと考えますが、地方はまだ「私学志向」が都会ほど強くなく、児童募集には様々な手段を用いながらも苦しんでいるところだからです。

北陸唯一のキリスト教学校でありその存在意義は大きいと考えますが、地方はまだ「私学志向」が都会ほど強くなく、児童募集には様々な手段を用いながらも苦しんでいるところだからです。

グループ討議発題(校長グループ) 学校現場のLGBTQ+対応 —臨床心理士から—

くるみ心理オフィス代表 二宮一美

現代社会では、ジェンダーやセクシュアリティの概念が、早い展開をみせています。「今やLGBTQ+の支援は、特別な人の特別なテーマではなくて、誰もが直面する課題です。支援者(教師)は、まずは自分自身の「性的文化が根強く存在します。性別に違和感をもつ子どもたちにとっては、

「LGBTQ+」は、それぞれのマイノリティを列挙したもので、系統立てて整理するには大変です。支援者(教師)は、まずは自分自身の「性的文化が根強く存在します。性別に違和感をもつ子どもたちにとっては、

「LGBTQ+」は、それぞれのマイノリティを列挙したもので、系統立てて整理するには大変です。支援者(教師)は、まずは自分自身の「性的文化が根強く存在します。性別に違和感をもつ子どもたちにとっては、

「LGBTQ+」は、それぞれのマイノリティを列挙したもので、系統立てて整理するには大変です。支援者(教師)は、まずは自分自身の「性的文化が根強く存在します。性別に違和感をもつ子どもたちにとっては、



グループ討議(校長グループ)

第9回 キリスト教 看護教育推進会議

放つことができる人材を育てたいという共通の願いをもって協議が行われてきました。

第9回の発題は、ペシヤワール会PMS支援室室長およびPMS総院長補佐として現地活動を支えている藤田千代子先生の「求められる看護・国際看護の視点から」と題した1時間15分余りのお話し。ペシヤワール会は福岡市のNGOで、発足して40年になるそうです。アフガニスタンで人道支援に取り組み、中村哲先生が銃撃され亡くなったあと現地での活動を続けています。

発題では、現地の画像や報告によって、想像を絶する過酷な環境にある人々の生活の中に入っ

この会議の目的は、キリスト教学校ではない看護教育とキリスト教学校における看護教育とに違いはあるのだろうか、あるとしたらそれは何かという点を協議することです。学生たちが卒業後、多くは医療職として保健師、助産師、看護師、養護教諭、教育者、研究者として、また、職場も病院をはじめ種々の施設でキリストの香りを

ディスカッション



する、看取りの場面で患者のため祈ることができていることが根付いている学校の例が出されています。

次年度は活水女子大学で11月9日(土)に開催される予定です。

山口昂久
〔折尾愛真高等学校教頭、キリスト教看護教育推進会議実行委員長〕



関東地区 第38回地区 中高研究集会

~No one will be left behind~



三井貴子氏



山梨英和中学の礼拝

ペースに合わせて学べるグレイスコースの説明は大変参考になりました。講師の三井先生、会場校の山梨英和中学校・高等学校とご準備くださった方々に心から感謝申し上げます。 高橋貞二郎
〔東洋英和女学院 副院長〕



関西地区 新任教師 研修会

2023年度関西地区新任教師研修会が11月18日(土)・19日(日)の2日間、京都の関西セミナリーハウスで開催されました。本研修会はコロナ禍以前の形態に戻り、14名のスタッフと26名の新任教員が参加しました。

一日目、伊藤多香子先生(関東学院六浦中学校・高等学校宗教科主任)による開会礼拝後、講師の三井貴子先生(山梨英和中学校・高等学校校長)より、なぜ通信制課程グレイスコースを開設する決意にいたったかを伺い、経緯、基本理念は全日制と同一、特色ある学び、選べるスクーリング、進路という順番にご説明をいただきました。

二日目は、山梨英和中学校・高等学校を訪問し全日制で学ぶ生徒と共に礼拝を守った後、グレイスコースの校舎を見学しました。その後、参加者と三井貴子先生、糟谷理恵子先生(通信制部長)、若尾真由美先生(山梨英和中学校・高等学校教頭)との懇談・意見交換の時間を持ちました。懇談では、三人の先生方から在



発題 藤田千代子氏

11月15日(水)・16日(木)、シャトレ・ゼボテル石和(二日目)と山梨英和中学校・高等学校は、三人の先生方から在



発題 村井健太郎氏



キリスト教Q&A

—キリスト教の理解を深めるために—

Q.聖書が言う「映える」って?



沖崎 学

(金城学院高等学校) 宗教主事

と、古い自分を打ち砕くこと」でもあったのです。つまり、この部屋に響いた、「ガシャーン!」という石膏の壺が割れる音は、この女性の「古い私」が打ち砕かれた音でもあったのです。イエスさまの「本物の愛」に直接に触れて、これまでの「古い私」が打ち砕かれ、これからは、「イエスさまの『本物の愛』に生きる、『新しい私』を生きてゆきたい。」と彼女は願うのです。

この女性に、イエスさまは告げられました。「あなたは、私に『良い』ことをしてくれた。」と。この女性がイエスさまにされた業は、どんなに高価な「ナルドの香油」も及ばないほど、価値があるというのです。さらに、この業こそ、イエスさまの「十字架の備え」であると言われました。この「良い」と訳されている言葉は、実に「美しい」という意味があります。つまり、この女性がイエスさまに捧げた行為は、「神さまの目に美しい」と訳せるのです。最近、生徒が「映(ばえ)る」という言葉を使いますが、まさに、「聖書映え」するのです。この「聖書映えする『美しい』生き方」を拡散できる、私たちでありたいものです。

(マルコによる福音書14章)

*2024年のキリスト教Q&Aは沖崎学先生に計6回をご担当いただく予定です。

イエスさまが、シモンさんの家で、食事をとっていたときの事です。ある女性が、イエスさまに近寄り、自分が持ってきた石膏の壺を「ガシャーン!」と壊したのです。その音に、一緒に食事をしていて、誰もが驚いたことでしょう。さらに、その石膏に入っていた香油を、その女性は、イエスさまの頭に注ぎかけたのです。部屋中に、その香油の香りが広がります。この香油は、「ナルドの香油」と呼ばれる、大変高価なものでした。かつて、イスラエルでは、王が即位するときに、同じように香油が注がれました。また、「救い主(キリスト)」は、「油注がれた者」という意味でもあります。つまり、この女性は、「人生の途上で、イエスさまに出会い、その愛を受けて、イエスさまこそ、私の『王』、私の『主』と確信し、この方の愛に生きてゆきたい。」との願いと祈りに溢れ、感謝と喜びいっぱい、この業を、イエスさまに捧げたのです。

私たちは、誰しも、私という国の王です。それまでの彼女も、そうでした。しかし、今、彼女は、「私という国の王は、イエスさまこそふさわしく、そのイエスさまの愛によって、私の人生を導いていただきたい。」と願うのです。だから、彼女にとって、香油の壺を割ることは、「それまでの自分を割るこ

最上の上機嫌で接すること、あなたには神様ではない、14名のスタッフと26名の新任教員が参加しました。

安心とゆとりが生まれてきた様に思いますが、多事多難の年、戦火は収まらず、悲劇と困難が続いています。学園で不安なく学び、芸術やスポーツに取り組み、平和の尊さを実感します。

事務局だより

過ぎた2023年のカレンダーを剥がし、昨年1年間の出来事に思いを馳せます。コロナ禍は、多少の応の収束が見え、多少の